

「きらみずき」栽培こよみ(化学肥料や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培)

令和7年1月 滋賀県農業技術振興センター

<施肥>

- 化学肥料(窒素成分)を使用しない
- 下表の基準量を目安に施用
- 地力の低いほ場で栽培は減収リスクが高いので避ける
- 側条施肥の場合、6月下旬頃に葉色が淡くなり始めたら葉色3.8以下になるまでに()内の量を目安に追肥
- 穂肥は幼穂形成期(幼穂長1mm)の1週間前(7月上旬中)および、1回目の2週間後を目安に2回施用

施肥法	地帯区分	基肥	追肥	穂肥Ⅰ	穂肥Ⅱ	合計
全層	湖辺粘質、高地力田	2 kg	2 kg	3 kg	3 kg	10kg
	湖辺砂質、平坦、中山間	3 kg	2 kg	3 kg	3 kg	11kg
側条	湖辺粘質、高地力田	3 kg	(1 kg)	3 kg	3 kg	9(10)kg
	湖辺砂質、平坦、中山間	4 kg	(1 kg)	3 kg	3 kg	10(11)kg
大豆跡		0~2kg	0~2kg	3 kg	3 kg	6~10kg

※10a 当たり窒素成分量
※肥料は「有機アグレット」を想定

<育苗・移植>

- 温湯消毒は60~62℃で10分間
- 温湯消毒後の種子は直ちに浸種するか、十分に風乾して低温低湿度で保管する
- 5月10日から20日を中心に移植
- 栽植密度は下表の基準を参考とする

湖辺	湖辺砂質、平坦	中山間
50~60株/坪	60株/坪	60~70株/坪

<水管理>

- 代かき前にあぜ塗りや畦畔補修で漏水対策
- 除草剤処理後はやや深水で7日間の止水管理を遵守
- 目標穂数の8割の茎数(茎数の推移を参考)で溝切り・中干しを実施
- 出穂前後各3週間は常時湛水管理
- 品質低下防止のため刈取予定日の5日前までは間断かんがいを実施

<茎数の推移>

中干し開始：300本/㎡
(50株植：20本/株)
(60株植：17本/株)
(70株植：14本/株)

最高分げつ期：475本/㎡
(50株植：31本/株)
(60株植：26本/株)
(70株植：22本/株)

幼穂形成期：430本/㎡
(50株植：28本/株)
(60株植：24本/株)
(70株植：20本/株)

令和7年1月 滋賀県農業技術振興センター

○特性概要(参考)

項目	きらみずき	日本晴	H28~R5年の平均値 (5/10 移植・ 農技センター内) * 緩効性肥料による データ。
出穂期	8月9日	8月8日	
成熟期	9月16日	9月14日	
稈長	74cm	83cm	
穂数 (/㎡)	381本	382本	
精玄米重(/10a)	604kg	567kg	
同上比率	(107)	100	

○収量構成要素の目安(510 kg/10aの場合)

項目	目安	項目	目安
穂数	380本/㎡	登熟歩合	76%
一穂粒数	78粒	玄米千粒重	22.7g
㎡当粒数	29,600粒		

○収量(/10a)(粒厚1.85 mm以上)・品質の目標

地帯			大豆跡	整粒歩合
湖辺粘質、高地力田	湖辺砂質、平坦	中山間		
510~540kg	480~510kg	480kg	510~540kg	80%以上



<収穫・乾燥・調製>

- 粗糲化率85~90%が刈取適期
- 乾燥時の仕上げ水分は14.5%
- 1.85 mm以上の網目で選別

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月～								
生育期区分		育苗期	移植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期				
水管理	浅水代かき・自然減水	浅水	やや深水	浅水管理	中干し	間断かんがい	★常時湛水管理（出穂前後各 3 週間）			間断かんがい					
栽培管理のポイント（★は注意事項）	栽培管理のポイント（★は注意事項）	★病害虫の常発地域を避けて栽培 栽培に適したほ場の選定	★漏水防止対策	・丁寧な代かきにより漏水を防止 ・あぜ塗りや畦畔補修を実施	・温度管理の徹底で徒長と葉焼けを防止 ・うす播き、均播を励行 ・温湯消毒後はすぐ浸種するか、風乾後低温低湿度で保管 温湯消毒は60℃で10分間実施	【健苗の育成】	★5月10日から20日を中心に移植 ★基肥は側条施肥の場合は葉色が低下したら施用 ★窒素成分2kg/10aを基準 ★追肥施用	★溝切り・中干しは目標穂数の8割の茎数で実施 【溝切り・中干し】	★雑草管理 ・ヒエ等が目立つ場合に中期剤を処理	★幼穂形成期1週間前とその2週間後の2回施用 ★窒素成分6kg/10aを基準に分施 【穂肥施用】	★出穂2～3週間前と出穂期の2回草刈りを徹底 【カメムシ防除のための畦畔2回連続草刈り】	★刈取予定日の5日前まで間断かんがいを実施 【登熟後半の水管理】	・刈り遅れると胴割れや茶米が増加するので注意 ★粗糲化率85%～90%が刈取適期 【適期収穫】	・適正な乾燥速度で胴割れと過乾燥を防止 乾燥時の仕上げ水分は14.5% 【乾燥調製】	★色彩選別機を活用し斑点米を除去 ★1.85mm以上の網目で選別 ・稲わら腐熟促進剤を施す ・稲づくりから腐熟促進剤を加えて、牛ふん堆肥等の有機物施用 ・土づくりの徹底